

13 倭寇図巻

S〇〇八〇ー二。一卷。縦三二・〇cm、全長五二三・〇cm。絹本着色。

題箋に「明仇十洲台湾奏凱図」とあり、一六世紀前半の明の画家仇英が描いた台湾討伐成功の図とする。しかし、画題・色調から英の作品ではないとされる。内容も台湾討伐成功の図ではなく、兵士と戦う者の武器が日本刀で、甲冑を着た者の兜が日本風であることから、倭寇を描いた図として「倭寇図巻」と呼ばれるようになった。倭寇とは、中世、朝鮮半島や中国大陸など東アジアの広い地域で活動した、日本人を含む海賊のこと。一四〜一五世紀に活動した前期倭寇と、一六世紀に活動した後期倭寇とがある。鉄砲を持った倭寇が描かれているので、後期倭寇を描いたとされる。倭寇の写実的な姿を伝える唯一の絵画史料として価値が高い。〔参考〕『倭寇図巻』（近藤出版社、一九七四）。田中健夫『中世対外関係史』（東京大学出版会、一九七五）。



13 倭寇図巻

明兵と倭寇の戦闘